

不当弾圧粉碎 6名即時奪還 730千葉刑包囲・抗議闘争を貫徹

日刊 勤労千葉

81.8.1 No. 809

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）電話（22）七二〇七

全支部から250名が結集して 激励・抗議闘争を展開！

完全黙秘で叩いぬく六名の仲間を激励し、即時奪還し、権力「本部」反動分子一体となつた勤労千葉破壊攻撃に反撃する七三〇千葉刑包囲・抗議闘争は、全支部から二五〇名が結集して断固叩いぬかれた。六名の仲間が不当逮捕されて以降すでに16日目。連日の宣伝カーによる激励・差入れ・家族対策など津田沼支部を先頭に全支部で叩いが展開された。この千葉刑包囲・抗議闘争は、敵のもくろみとは逆に勤労千葉がますます団結をかため、反撃の叩いに立ち上っていることを内外に示す叩いとして圧倒的にかちとられた。

「本部」反動分子の告訴を弾劾し、 完黙で叩う六名を守りぬく

千葉刑包囲デモに先だつて13時すぎより近くの皇尊寺台公園で集会を開催。まず挨拶にたった奥川委員長は、「完黙で叩う六名と津田沼支部を包む全支部の叩いを一層強めよう。この叩いに勝利し、80年代労働運動の前進の道を切り拓こう」と決意表明。続いて、三里塚反対同盟実行委員の三浦さんから「勤労本部」革マルといわれる人たちが労働者を権力に売り渡したということは許せない。勤労千葉への弾圧は二期工事に向けた敵の攻撃であり、反対同盟は労働連帯の証しにかけて勤労千葉を守りぬく」と力強くあいさつ。津田沼支部山下支部長代行「叩いぬければ、80年代激闘の時代に通用する自前の労働運動をめぐって、81年闘争をはじめ諸闘争を叩ってきた。叩いぬければ、勤労本部」反動分子を一掃することが使命である。任意出頭をかけられている他の四名を逮捕できないのは、六名の完黙の叩いがあるからだ。私は六名の仲間と同じ立場で叩いぬく。津田沼支部一四二名は、一三〇〇の先頭で叩い続けていく。」

続いて、弁護団を代表して、菅野弁護士から連帯の挨拶。「六名は、不当逮捕以来、連日、七、八時間の取調べを受けている。夜10時に及びこともあった。これを打ち破るのは、組合員の支援行動だ。六名は、この弾圧の中で外の仲間を信じて完黙で叩いている。弁護団は、六名の仲間の早期奪還のため共に叩う。」

80年代の試練とつげとめ叩あつ、

さらに、中野書記長から勤労千葉闘争委員会
の当面の闘争方針が提起された。

「今回の勤労千葉に対する権力、勤労本部」反動分子一体となつた攻撃を、80年代にむかふこの試練とつげとめ勝利していく。六名の完黙の叩いを先頭に津田沼支部の総決起——この団結力、行動力、結ぶが勝利の力である。そして、まずオ二に、六名を完黙のまま早期奪還すること。オ二に、そのためにあらゆる行動を全支部で展開し、不当な起訴攻撃を許さないこと。」

そして最後に、各支部を代表して、白井幕張支部長、松崎新小岩支部長からそれぞれ、「①労働者が労働者を権力に売り渡したという事は、断じて許せない。②「4/17襲撃」はじめ、叩いぬければ、権力に「告訴」するな」という事は拒否してきた。追及された本部は、「4/17で勤労千葉も告訴すればいい」と言っている。労働者の感性を全く失った、権力と同じ発想だ。③国鉄の仲間も多く、カチンとしたいと言っている。④一三〇〇が自分自身の問題として叩いて、全体で支えなければならぬ」との決意表明が行なわれ、千葉事務所を包囲するデモに出発した。大者響の激励宣伝カーを先頭に、そして、反対同盟の宣伝カーも加えて、二五〇名の隊列は、あんな

隔りの声をほり上げ、獄中の仲間の激励と権力への抗議を込めて、堂々とデモ行進を貫徹した。



全組合員 家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！